

数字でみる総合型クラブの設立効果と現場の声

～会員, 非会員, 未設置地域を比較して (平成 21 年度文部科学省実施調査結果抜粋)～

ここでは、総合型地域スポーツクラブができた後、クラブに加入した会員のスポーツ参加、心身の健康、人とのつきあいなどがどう変わったのか、実際の変化・効果のデータをご紹介します。

客観的なデータからみた設立効果によって、総合型地域スポーツクラブが、社会から認知や理解を得られるよう、現場や関係者の方々に様々な場面で使っていただければ幸いです。

調査データは、文部科学省が平成 21 年度に実施した「総合型地域スポーツクラブの設立効果に関する調査研究報告書」(平成 22 年 3 月)の一部を抜粋しています。そのため、図表番号は報告書掲載のままになっておりますので、ご了承ください。

また、上記調査研究とは別に、今回の特集のために、各地の総合型クラブのクラブマネージャーさんから情報を寄せていただきました。設立効果のテーマごとに、現場の声やエピソードを「クラブマネージャーからのコメント(日本体育協会調べ)」欄に併せて掲載しています。

【調査方法と用語の説明】

出所:「総合型地域スポーツクラブの設立効果に関する調査研究報告書」平成 22 年 3 月

文部科学省調査 (委託先:㈱三菱総合研究所)、平成 21 年度実施

■「会員」 2,735 サンプル……総合型クラブの現会員

全国 55 カ所の総合型地域スポーツクラブの会員を対象に、アンケート調査票を直接配布・回収した。
(1クラブあたり会員数の 30%を目安とし、上限 100 人、下限 20 人を調査対象数と設定)

■「周辺住民」 1,646 サンプル……総合型クラブのある地域に住む非会員

全国 55 カ所のクラブのある自治体(市区町村)住民を対象に、WEB アンケート会社のモニターを活用したアンケート調査を実施した。1自治体あたり 30 票を目安に抽出し、規模が小さくモニター数が十分でない自治体は近隣から補完し、モニター数が 1,000 以上の市区町村は、回答者の年代が偏らないようにした。会員か非会員かを設問に設け、会員以外の住民を集計している。

■「未設置」 921 サンプル……総合型クラブがない地域に住む住民

総合型クラブ未設置の自治体(市区町村)住民を対象に、WEB アンケート会社のモニターを活用したアンケート調査を実施した。自治体の抽出にあたっては、全国を 9 つのエリアに分け、地域や人口規模が偏らないように 1自治体あたり 30 票を目安に抽出した。
また、人口 1,000 人以下の未設置自治体は全て調査対象とした。

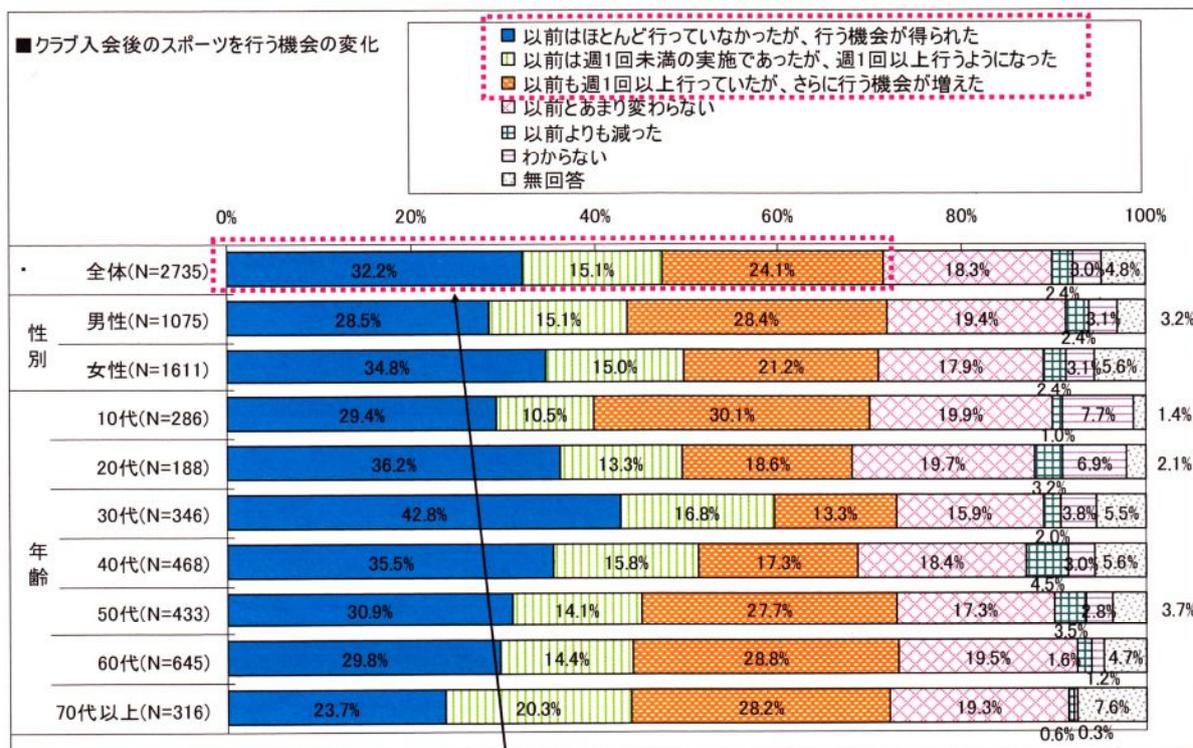
※「会員」と「非会員」の比較の際、「非会員」は上記「周辺住民」と「未設置」のサンプルを合計している。

1. スポーツを行う機会の変化 ～会員の3人に1人は、入会を機会にスポーツを開始

総合型クラブの会員、2,735人から得た回答で、入会前後でのスポーツ実施状況をみてみると、71.4%が入会前よりスポーツ実施頻度が増えたと回答しています。

とくに、「以前はほとんど行っていなかったが、行う機会が得られた」が最も多く、32.2%を占めています。(報告書 P143 より抜粋)

図表 3-8 クラブ入会後のスポーツを行う機会の変化



総合型地域スポーツクラブへの加入によるスポーツ参加の促進

- ① クラブに入会して、スポーツを始めた。
- ② クラブに入会して、定期的にスポーツを行うようになった。
- ③ クラブに入会して、さらに実施頻度が増えた。

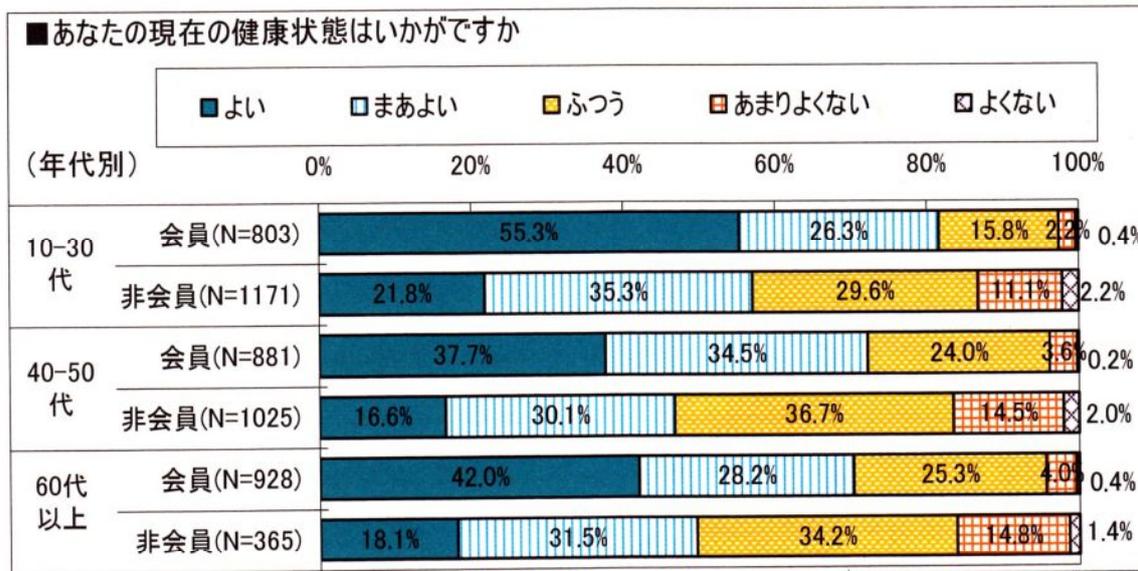
<クラブマネジャーからのコメント(日本体育協会調べ)>

- ・年会費で多種目のつどい(教室)に参加できるシステムにより、複数の種目に参加する会員が増えた。
- ・特定のスポーツ種目に限らず、地域の自然を活かした活動(登山、ウォーキング、雪山散策)への参加が増えた。
- ・スクールでスポーツを始めた会員が、その後地元のスポーツ少年団に入会、また中学校での部活に興味を示してくれるようになった。
- ・今までスポーツ少年団などに入会しなかった子どもたちがスポーツ(卓球・バドミントン・ソフトテニス)に親しむようになり、スポーツ人口の底辺の拡大につながっている。
- ・プロ野球選手、オリンピック選手などトップアスリートとふれあえる機会が増えた。
- ・現在のスクール会員 90 名の内、クラブのスクールを通じてスポーツを始めた会員は約 70 名になる。

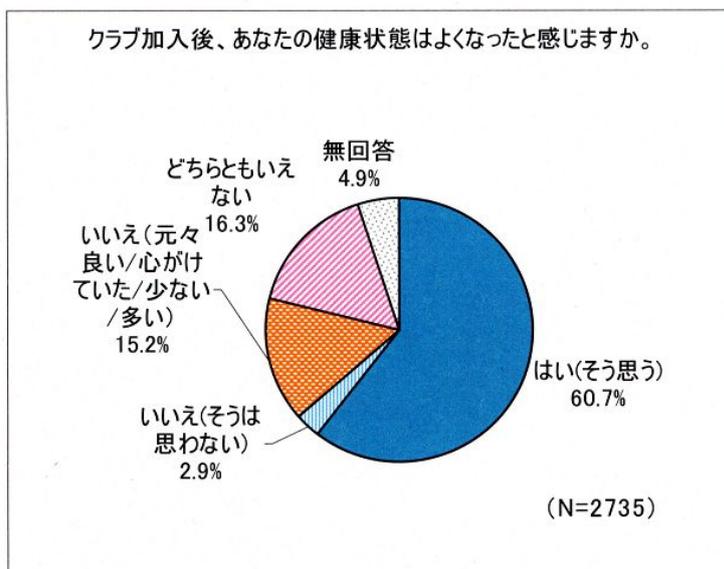
2. 健康状態 ～「よい」は非会員の2倍以上。6割が加入後「健康状態がよくなった」

会員と非会員（会員以外の周辺住民と未設置地域の住民）と比較し、さらに年代別でみてみると、どの年代でも「現在の健康状態はよい」とする会員の割合が非会員の2倍以上になっています。もともと健康だった人が会員になりやすい傾向はありますが、円グラフをみると「クラブ加入後に健康状態がよくなった」と回答する人が6割を占めています。（報告書 P220、P156 より抜粋）

図表 6-22 現在の健康状態（年代別）



図表 3-24 クラブ入会後の健康状態



<クラブマネージャーからのコメント(日本体育協会調べ)>

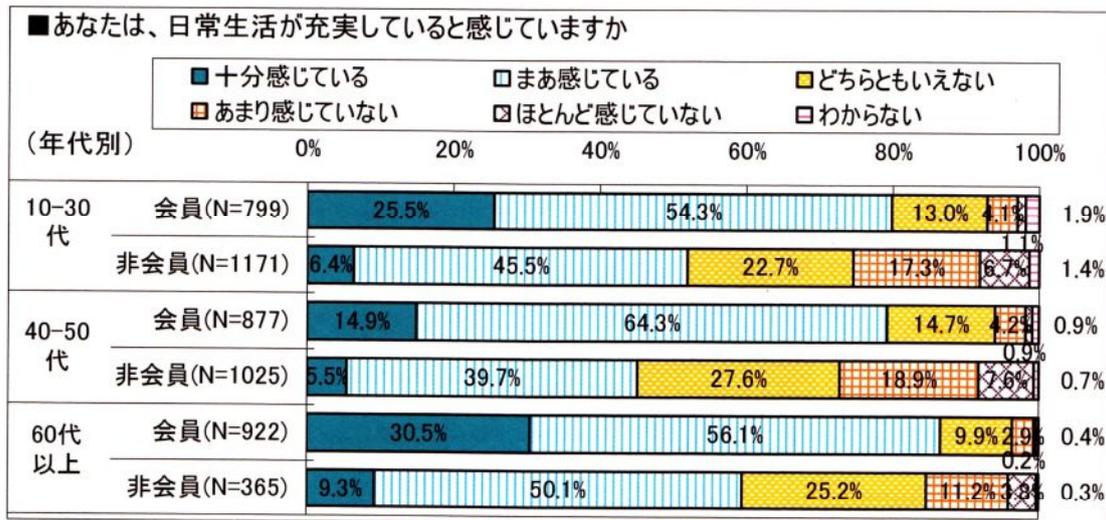
- ・近年の健康志向もあり、複数ある健康体操的な種目では、参加者のほとんどが重複するほど人気でている。種目によっては、その場で会員になる方もいる。
- ・子供のスポーツのみならず、中高年の健康増進のためノルディックウォーキングによる健康教室を開催することになり、会員に喜ばれている。
- ・農林業の町であるため日中や夕方の活動には制限があり時間をとる事が難しい状況にあるが、クラブ員が活動しやすい時間帯に活動できるように工夫している。

3. 充実感や精神面の落ち込み ~ 会員の充実感是非会員の約3倍

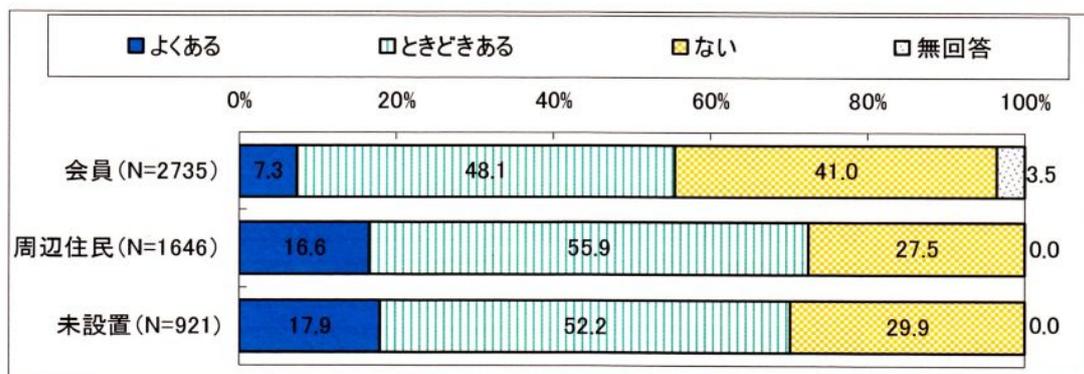
会員と非会員と比較し、さらに年代別でみてみたところ、どの年代でも「日常生活が充実していると十分感じている」会員の割合が非会員の約3倍になっています。「まあ感じている」をあわせると会員の約8割が感じており、なかでも60代以上の割合が高くなっています。

他方、「精神面の落ち込みや不快感」を感じる割合が「よくある」会員の割合は、周辺住民や未設置の住民の2分の1以下になっています。(報告書 P219、P134 より抜粋)

図表 6-20 日常生活の充実感 (年代別)



図表 2-19 精神面な落ち込みや不快感を感じる割合



< クラブマネージャーからのコメント(日本体育協会調べ) >

- ・会員自らクラブの良さをアピールして、知り合いを紹介してくれる。スタッフの思いが伝わっているような気がする。元気を感じる。
- ・「新しい仲間ができた」「生活にメリハリができた」「子どもに体験させる機会が増えた」という会員。
- ・子ども達が地域のお年寄り達との交流ができることが楽しみになった。自然に触れる機会(サツマイモの苗植え・収穫)ができたことで、植物・そこに生息している生物などにも関心が生まれてきた。
- ・サツマイモ作りの畑は休耕地を無償で借用、畑の近隣の老人ホームでは、厨房・トイレ・駐車場などを貸してくれる。サツマイモの収穫祭の時には、とれたてのサツマイモを美味しくいただいている。
- ・会員からの要望で、スポーツ教室以外に、ハイキング・バーベキューなど野外活動も活発になり、コミュニケーションがアップしている。

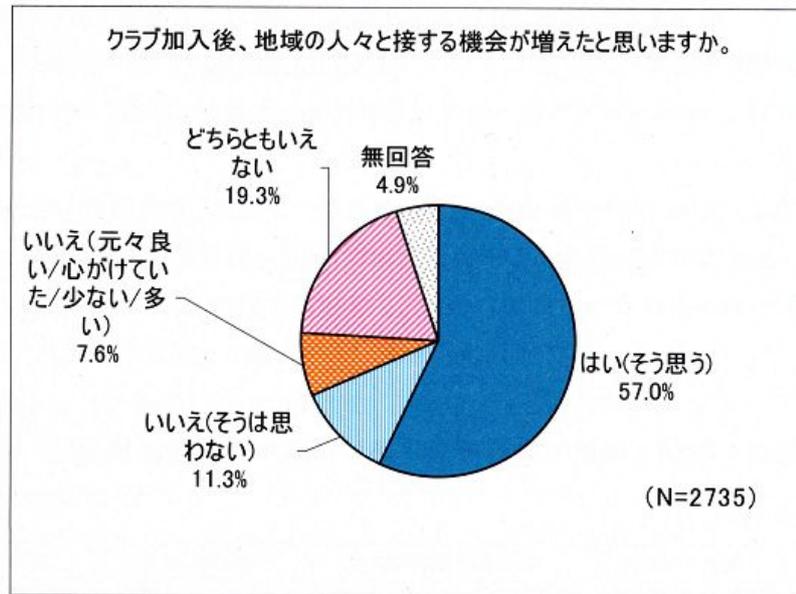
4. 地域の人々と接する機会 ～加入後に接する機会が増えた会員6割

加入後に地域の人々と接する機会が増えたとする会員は、約6割にのびります。

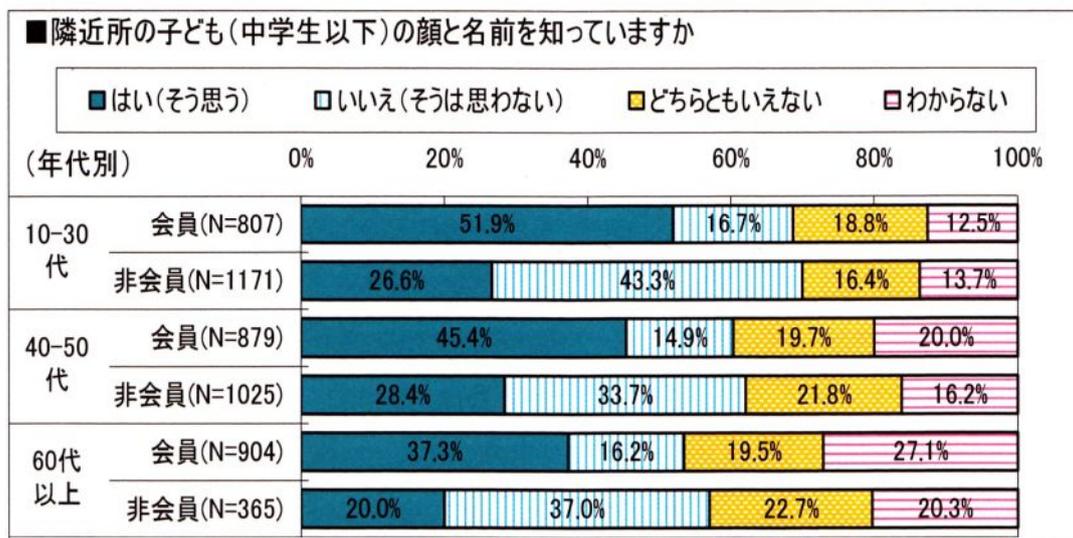
「中学生以下の隣近所の子どもの顔と名前を知っている」のは、非会員より会員の割合が高く、10-30代の世代では、「知っている」会員 51.9%、非会員 26.6%で、25ポイントもの差があります。

(報告書 P152、P215 より抜粋)

図表 3-19 クラブ加入後の近所づきあい



図表 6-10 地域での近所づきあい③ (年代別)



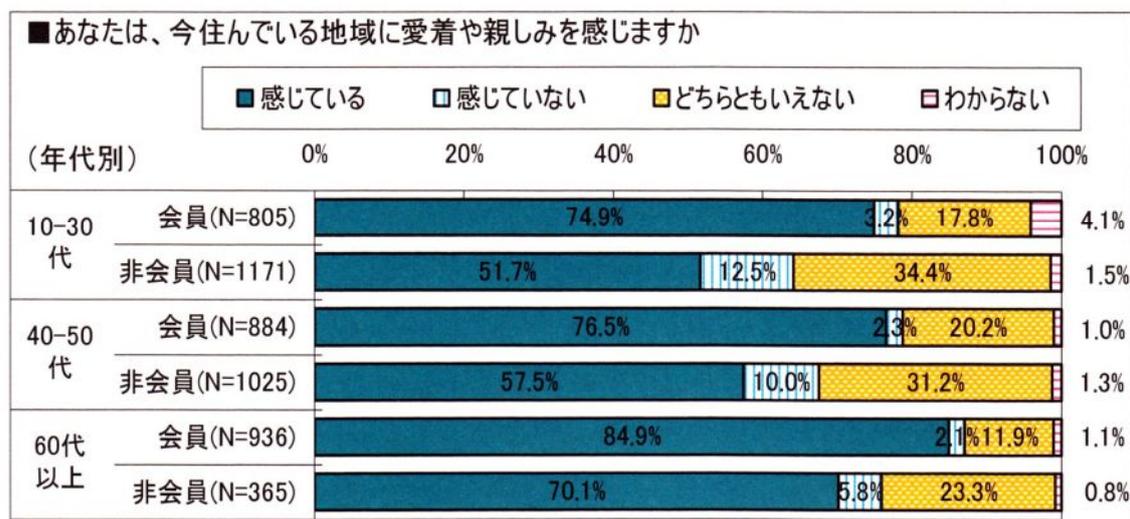
<クラブマネジャーからのコメント(日本体育協会調べ)>

- ・クラブに参加して、2軒隣に住んでいる方だと話をしているうちにわかって、びっくりした。
- ・地域住民の交流がいかにないか、役員でもしない限り近所づきあいのない地域。少しずつだが、クラブで出会った方同士での交流ができてきた。
- ・子どもから、高齢者まで仲間意識が芽生えて、お互いに挨拶から始まり会話・相談・助け合いなど、実施種目のつきあいに留まらず、お互いに親しく交流したり、旅行したりしている。
- ・クラブハウスを道沿いに設置してから、「どんな建物だろう」と近所の方がよく訪ねてきてくれるようになった。

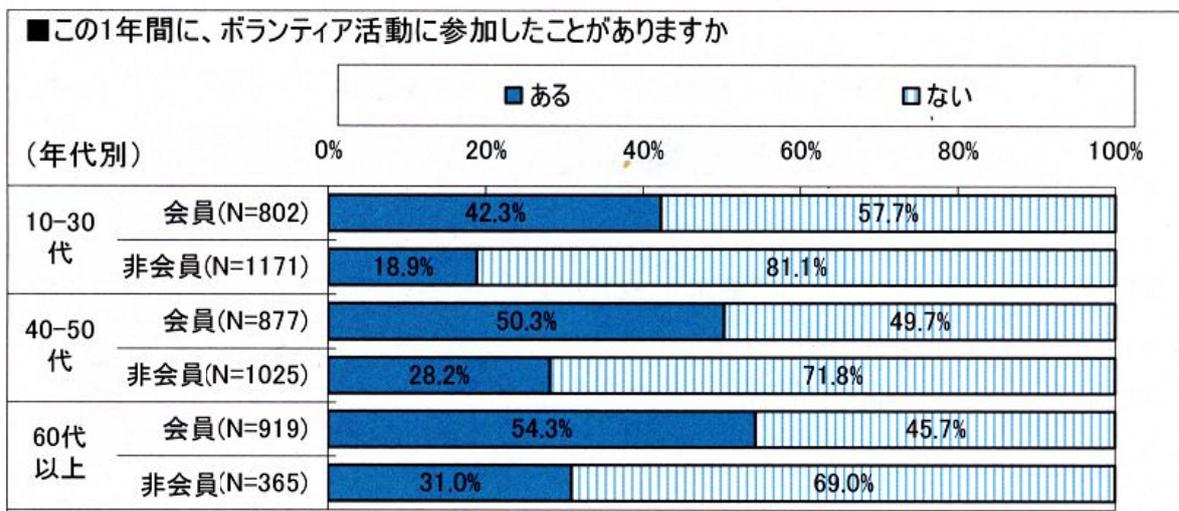
5. 地域への愛着とボランティア活動 ～若い世代で会員・非会員の差が大きい

地域に愛着や親しみを感じているのは、どの世代でも非会員より会員の割合が高く、とくに10-30代の世代では、会員 74.9%、非会員 51.7%で、差が大きくなっています。ボランティア活動への参加でも、若い世代では活動実績に2倍以上の開きができています。(報告書 P212、P218 より抜粋)

図表 6-2 住んでいる地域への愛着 (年代別)



図表 6-18 ボランティア活動への参加 (年代別)



<クラブマネジャーからのコメント(日本体育協会調べ)>

- ・5年前に合併し、その後クラブが設立されたが、地域差なく楽しい教室が展開されている。
- ・役員の子供(学生・20代)がなんとなく手伝いに来たイベントで、他の市町村の頑張りを知り、「負けてられない」と奮起。同級生や後輩に声かけ、今までなかった学生・20代のボランティアスタッフが組織としてできあがってきた。
- ・自治区の活動にクラブが協力する場面ができた(ウォーキング、子供会のドッチボール大会)。
- ・会員が増えてきて、イベントを実施するときには会員が運営に協力してくれるようになった。
- ・スタッフ同士で積極的な部会を開催し、地元の体育協会主催イベントのお手伝い、地元商店街イベントの共催、地元青年会議所主催のフットサル大会や中学生のサッカー大会での審判、親子フットサル&バーベキュー、カヌー体験&川遊び等々の企画実施を通じて、地域貢献活動もできるようになった。

6. その他

< クラブマネージャーからのコメント(日本体育協会調べ) >

- ・指導の手伝いをしていたスタッフが、日体協公認スポーツ指導員資格を取得し、熱心に指導している。
- ・活動場所の確保が安定した。
- ・野球教室やバレーボール教室などの継続開催で、地域から県大会優勝(全国大会出場)が増えた。
- ・公民館や小学校から、いっしょにできる事業がないのか、また事業に協力したいという依頼が来るようになった。
- ・他の既成の団体組織などが、私たちの企画を真似したり、活性しようという動きが見られるようになった。
- ・活動に対して、行政、体育協会からも様々な協力をいただけるようになった。とくに地元の体育協会ではスクール体験会を全て主催していただけるようになり、そのネットワークと実績で、これまで単独で開催していた時の倍近い人数が集まるようになった。
- ・これまでの地域におけるスポーツ環境の特徴は、継続性のあるものは競技性が強かったが、継続的に「スポーツを楽しむ」環境づくりをクラブが進めることで、少子化によるスポーツ離れが進む地域の現況を少しでも改善したいし、その方向に進んでいる。
- ・活動場所が同じ子どもたちの野球チームとは、グラウンドを共有するために、整備・清掃等では協力し合って、助け合っている。

【「総合型地域スポーツクラブの設立効果に関する調査研究」に関する問い合わせ先】

文部科学省 スポーツ・青少年局 生涯スポーツ課
TEL 03-5253-4111 (代) (内線 2688)